

# 沖縄南部の1・2音節語のアクセント

中 本 正 智

## 目 次

1. はじめに
2. 奥武方言の音頭
3. 準一音節語のアクセント
4. 二音節名詞のアクセント
5. むすび

## 1. はじめに

これまで沖縄南部のアクセントについて、広範囲にわたる調査がなされていなかった。だから、どの地域にはどのような種類のアクセントが行われているのか全く見通しがつかなかった。ところで、われわれ琉球方言研究クラブが今年三月、「琉球方言」第2号を出すおよんで、その類型と分布の状況が、おおよそわかった。もちろん、同誌では準一音節語（東京方言における一音節名詞に対応する沖縄方言）だけの調査しか報告できなかったの、それだけではまだ十分でないが、その結果によると、知念・玉城・佐敷の三村が南部でもっともまとまった一つのグループであることがわかる。そこで、このグループの一つである玉城村<sup>\*</sup>奥武方言の音韻について簡単に述べ、さらに二音節名詞においても、このグループが準一音節語の調査結果と一致するかどうか、

その境界地帯を中心に調査した結果をこゝにまとめて中間報告とする。

## 2. 奥武方言の音韻（服部四郎博士の方法による.）

### 2.1 音素

子音音素 /ʔ, h, ', k, ɛ, g, π, b, t, ɕ, d, c, ɟ, z, s,  
r, m, n/

半母音音素 /j, w/

母音音素 /i, e, a, o, u/

モーラ音素 /N, Q/

ʔ は語頭に立ち、半母音音素・母音音素・モーラ音素 N の直前だけに立ちうる。k・t・tʃ には有気と無気の区別があり、それぞれ k・t・c, ɛ・ɕ・ɟ の記号を用いる。なお、π は p の無気である。Q は ɛ・π・ɕ・ɟ・s の直前だけに立ち、語頭にはあられない。

### 2.2 モーラ

モーラの構造はつぎのとおりである。c は子音、s は半母音、v は母音のそれぞれの音素をあらわす。

/cv/, /csv/, /cN/, /Q/

ただし、この方言では /cv/ の構造のうち /t・ɕ・d+i/ は /c・

ɥ・z+i/ に変化している。これは南部地方のこれまでの調査からすると、この方言だけに見出される現象である。

### 2.3 モーラとそれに該当する音声

/ɽi/ /ɽe/ /ɽa/ /ɽo/ /ɽu/ /ɽwa/ /ɽja/ /ɽN/ [ɽi] [ɽe] [ɽa] [ɽo] [ɽu] [ɽwa] [ɽja] [ɽn] [ɽm]

/hi/ /he/ /ha/ /ho/ /hu/ [hi] [he] [ha] [ho] [hu] [çi] [Φa] [Φu]

/ʼi/ /ʼe/ /ʼa/ /ʼo/ /ʼu/ /ʼwa/ /ʼja/ /ʼjo/ /ʼju/ /ʼN/ [(j)i] [(j)e] [a] [o] [wu] [wa] [ja] [jo] [ju] [n] [m] [ŋ]

/ki/ /ke/ /ka/ /ko/ /ku/ /kwa/ [k'i] [k'e] [k'a] [k'o] [k'u] [k'wa]

/κi/ /κe/ /κa/ /κo/ /κu/ /κwa/ [k'i] [k'e] [k'a] [k'o] [k'u] [k'wa]

/gi/ /ge/ /ga/ /go/ /gu/ /gwa/ [gi] [ge] [ga] [go] [gu] [gwa]

/pi/ /pe/ /pa/ /po/ /pu/ [p'i] [p'e] [p'a] [p'o] [p'u]

/bi/ /be/ /ba/ /bo/ /bu/ [bi] [be] [ba] [bo] [bu]

/mi/ /me/ /ma/ /mo/ /mu/ [mi] [me] [ma] [mo] [mu]

/te/ /ta/ /to/ /tu/ [t'e] [t'a] [t'o] [t'u]

/ɽe/ /ɽa/ /ɽo/ /ɽu/ [t'e] [t'a] [t'o] [t'u]

/da/ /da/ /do/ /du/ [de] [da] [do] [du]

/ni/ /ne/ /na/ /no/ /nu/ [ni] [ne] [na] [no] [nu]

/ri/ /re/ /ra/ /ro/ /ru/ [ri] [re] [ra] [ro] [ru]

/ci/ /ce/ /ca/ /co/ /cu/ [tʃ'i] [tʃ'e] [tʃ'a] [tʃ'o] [tʃ'u]

/ɕi/ /ɕe/ /ɕa/ /ɕo/ /ɕu/ [tʃ'i] [tʃ'e] [tʃ'a] [tʃ'o] [tʃ'u]

/zi/ /ze/ /za/ /zo/ /zu/ [dʒi] [dʒe] [dʒa] [dʒo] [dʒu]

[dze] [dza] [dzo] [dzu]

/si/ /se/ /sa/ /so/ /su/ [ʃi] [se] [sa] [so] [su]

/q/

### 2.4 アクセント素

この方言のアクセントはつぎのように弁別できる。(1) 下り核があるかないか、(2) あればどこにあるか。

そこで表記は音韻記号を用いる。アクセントは<sup>ˆ</sup>によって核の場所を表記する。<sup>ˆ</sup>のないものは、核のないことを表わす。

すなわち、つぎの体系になる。

● /qu<sup>ˆ</sup>/《人》, /kwa<sup>ˆ</sup>/《子》など。

○○ /ki<sup>ˆ</sup>i/《木》, /ɾami/《雨》

●○ /ci<sup>ˆ</sup>i/《血》, /ha<sup>ˆ</sup>a/《葉》

○○○ /ɾakura/《芥》

●○○ /ɾa<sup>ˆ</sup>gari/《東》

●●○ /ki<sup>ˆ</sup>i<sup>ˆ</sup>na/《木か?》

/ma<sup>ˆ</sup>a<sup>ˆ</sup>jo/《どこよ》

○○○○ /ɾa<sup>ˆ</sup>nma<sup>ˆ</sup>a/《母》

●○○○ /ɾa<sup>ˆ</sup>ka<sup>ˆ</sup>ngwa/《赤児》

●●○○ /ni<sup>ˆ</sup>i<sup>ˆ</sup>zama/《寝言》, /sa<sup>ˆ</sup>n<sup>ˆ</sup>si<sup>ˆ</sup>n/《三味線》

●●●○ /ɾumi<sup>ˆ</sup>n<sup>ˆ</sup>qu/《海の人》(漁獵で生計を立てゝいる人)

ただし、●●○と●●●○とは助詞がついた語や複合語の場合だけにあらわれる型である。

## 2.5 アクセント群の対応

この方言と現代東京語とのアクセントの対応関係をみると、つぎのように、アクセント群がきれいに対応する。

a 名詞

一音節語 (東京語) (奥武語)

第一類 ちガ /ci<sup>ˆ</sup>i/《血》

第二類 ナガ /na<sup>ˆ</sup>a/《名》

第三類 テガ /ci<sup>ˆ</sup>i/《手》

二音節語

第一類 カゼガ /ka<sup>ˆ</sup>zi/《風》

第二類 ウダガ /ɾu<sup>ˆ</sup>ɾa/《歌》

第三類 ヤマガ /ɾjama/《山》

第四類 カサガ /kasa/《笠》

第五類 アセガ /ɾasi/《汗》

奥武方言においては、助詞 nu はこれらの末音節の高さにつけることができ、核の移動をおこさない。

b 動詞

二音節

第一類 オク /ɾu<sup>ˆ</sup>qu<sup>ˆ</sup>n/《置く》

キル /ci<sup>ˆ</sup>i<sup>ˆ</sup>n/《着る》

第二類 トル /tu<sup>ˆ</sup>i<sup>ˆ</sup>n/《取る》

三音節

第一類(イ)アタル /ɾaca<sup>ˆ</sup>i<sup>ˆ</sup>n/《当たる》

(ロ)ステル /hi<sup>ˆ</sup>qi<sup>ˆ</sup>i<sup>ˆ</sup>n/《捨てる》

(ロ)は二音節めの母音が長音化する場合にかぎる。「琉球方言」創刊号の動詞の語彙集の中では、(イ)と同じアクセント記号をつけたが、これは改めるべきである。

第二類 ウゴク /ɾNzuqu<sup>ˆ</sup>n/《動く》

第三類 アルク /ɾa<sup>ˆ</sup>qu<sup>ˆ</sup>n/《歩く》

ハ 形容詞

## 三音節

- 第一類 アカイ /ʔakaːˈhaːN/ 《赤い》  
 第二類 シロイ /siruhaːN/ 《白い》  
 または /siruˈhaːN/ 《白い》

## 四音節

- 第一類 アブナイ /ʔabuːˈnahaːN/ 《あぶない》  
 第二類 (ナツカシイ) /naːʔikaːˈhaːN/ 《なつかしい》  
 または /naːʔikaːˈhaːN/ 《なつかしい》

これでわかるように形容詞の第二類は一語で二つの型をもつ。

## 3. 準一音節語のアクセント

今年三月に出された「琉球方言」第2号は、琉球方言研究クラブが、1959年8月から約七ヶ月にわたって、沖縄南部を中心に、準一音節語のアクセントについて、中学生を対象として調査した結果をまとめたものである。二音節名詞のアクセントについてふれるまえに、準一音節語について、その結果を簡単に述べよう(詳しくは「琉球方言」第2号参照)。

3.1 調査語彙 第一類(柄・血・帆・実)、第二類(名・葉・日・薬)、第三類(木・田・手・火・目)

3.2 調査部落 後にかゝげる地図上の部落名は、調査した部落である。「琉球方言」第2号では番号で呼んだので、この稿でも参照の便宜上その折に用いた番号も時に注記した。

## 3.3 アクセントの類型

準一音節語について215の部落から、つぎのようなアクセントの類型がでた。なお、これらはつぎのようにして分類される。

第一類型は第一・二・三類が同型で、A形とす。

第二類型は第一・二類と第三類とに分かれるものであるが、さらに第三類の語に助詞をつけたとき、○○▲、○●▲、○●△になるものは上昇型と見てB形とし、○○△、●●△、●○△になるものは平板型又は下降型と見てC形とする。これに従って表を作るとつぎのようになる。

アクセント表(準一音節語)

第1表(第一類・第二類・第三類)

		(第一・二・三類)	
第一類型 A	A <sub>1</sub>	●○~○○△	
	A <sub>2</sub>	●○~○●▲	
	A <sub>3</sub>	●○~●●△	
	A <sub>4</sub>	●○~●○△	
		(第一・二類)	(第三類)
第二類型の B	B <sub>1</sub>	●○~●○△	○●~○○▲
	B <sub>2</sub>	●○~●●△	○●~○○▲
	B <sub>3</sub>	●○~○○△	○●~○○▲
	B <sub>4</sub>	○○~●●△	○●~○○▲
	B <sub>5</sub>	○○~○○△	○●~○○▲
	B <sub>6</sub>	●○~●○△	●○~○○▲
	B <sub>7</sub>	●○~●●△	●○~○○▲
	B <sub>8</sub>	●○~○○△	●○~○○▲
	B <sub>9</sub>	○○~●●△	●○~○○▲
	B <sub>10</sub>	○○~○○△	●○~○○▲
	B <sub>11</sub>	●○~●●△	●○~○○▲

第二類型の C

B <sub>12</sub>	●○～○○△	●○～○●▲
B <sub>13</sub>	●○～●○△	○○～○○▲
B <sub>14</sub>	●○～●●△	○○～○○▲
B <sub>15</sub>	●○～○○△	○○～○○▲
B <sub>16</sub>	○○～●○△	○○～○○▲
B <sub>17</sub>	○○～●●△	○○～○○▲
B <sub>18</sub>	○○～○○△	○○～○○▲
B <sub>19</sub>	●○～●●△	●○～○●△
B <sub>20</sub>	●○～●●△	○○～○●△
B <sub>21</sub>	●○～●○△	●○～○●△

C <sub>1</sub>	●○～●○△	●○～○○△
C <sub>2</sub>	●○～●●△	●○～○○△
C <sub>3</sub>	●○～●○△	○○～○○△
C <sub>4</sub>	●○～●●△	○○～○○△
C <sub>5</sub>	●○～○○△	○○～○○△
C <sub>6</sub>	○○～●○△	○○～○○△
C <sub>7</sub>	○○～●●△	○○～○○△
C <sub>8</sub>	○○～○○△	●○～○○△
C <sub>9</sub>	●○～●○△	●○～●●△
C <sub>10</sub>	●○～●○△	○○～●○△
C <sub>11</sub>	●○～●●△	○○～●○△
C <sub>12</sub>	●○～●●△	●○～●○△
C <sub>13</sub>	●○～○○△	○○～●○△
C <sub>14</sub>	●○～●○△	○○～●○△
C <sub>15</sub>	●○～●○△	○○～○○△
C <sub>16</sub>	●○～●●△	○○～○○△

3.4 分布地図

以上のことを地図で見ると、44 ページのような分布状態を示す。なお、地図上のラインについては後述する。

この調査の際、私は三和村・具志頭村・玉城村・知念村・佐敷村を担当するグループに属していたが、この地図でも明らかなように、知念村・玉城村・佐敷村がほとんど C<sub>3</sub> [●○・●○△(第一・二類), ○○・○○△(第三類)] で統一されており、これは沖繩南部でもっとも大きなグループをなす。さらに、かつて王城のあった首里は、この型にもっとも近い C<sub>4</sub> [●○, ●●△(第一・二類), ○○・○○△(第三類)] になっており、周囲への広がりがない。このことは、沖繩南部を言語地理学的に考察するのに、重要であるだけに、そのグループのアクセント体系とその境界線をもっと明確にするのが、さしあたり問題となる。そこで、さっそく 1960 年 3 月から調査にとりかかった。ここでは紙面の都合で二音節名詞だけの結果をまとめる。

4. 二音節名詞のアクセント

4.1 調査語彙

第一類一魚・風・腰・鼻, 第二類一石・音・川(井戸のこと)・橋, 第三類一雨・馬・雲・花, 第四類一息・稲・笠・船, 第五類一汗・桶・夜. 以上 19 語を調査した語彙の中からとりあげる。

4.2 調査部落

調査部落はアクセントの類型の境界を中心としたつぎの部落である。

162 津嘉山, 76 港川一区, 31 金良, 33 長堂, 29 饒波, 69 新



城, 53 摩文仁, 100 知念, 80 前川, 108 馬天, 109 小谷, 152 当添, 67 喜屋武, 133 大城, 132 目取真, 119 西原, 135 真境名, 131 湧稲国, 142 世名城, 125 当間, 73 安里, 75 仲座, 90 奥武, 93 玉城, 94 新原, 97 志喜屋, 112 佐敷, 110 新里, 88 富里, 87 垣花, 84 喜良原, 79 船越, 78 愛地, 143 高良, 71 大頓, 210 首里当蔵, 141 富盛, 70 後原, 72 玻名城, 32 嘉数, 103 安謝真, 105 海野, 118 仲伊保, 163 山川。

以上の 44 部落を調査した。これらは、44 ページの準一音節語のアクセント分布地図の上で部落名を ( ) に囲わないで記した。

#### 4.3 調査・表記

被調査者は 30 才から 60 才の人々で、その土地出身の、純粹の方言が話せる人々である。

表記は簡略音声記号を用いる。なお、アクセント表記は、下降を「 $\downarrow$ 」、上昇を「 $\uparrow$ 」で示し、そのいずれもつけてないのは平板をあらわす。

#### 4.4 アクセントの類型

上述の 44 部落からつぎのようなアクセントの類型がでた。類型の分類は準一音節語の場合と同じ。すなわち、

第一類型は第一類から第五類までの型が同一なもの (A 形)

第二類型は第一・二類と第三・四・五類との二つの型に分かれるもの。さらに、第三・四・五類の語に助詞をつけたとき、○○▲になるもの (上昇型—B 形)、○○△、●○△になるもの (平板・下降型—C 形) の二つに分ける、

アクセント表

第一類型	A 形	(1)	●○~○●▲		
		(2)	●○~○○△		
第二類型	B 形	(3)	●○~○○△	○○~○○▲	
		(4)	●○~●●△	○○~○○▲	
		(5)	●○~●○△	○○~○○▲	
		(6)	○○~●○△	○○~○○▲	
		(7)	●○~●○△	○○~○○▲	
		(8)	●○~●○△	●○~○○▲	
		C 形	(9)	○○~●○△	○○~○○△
			(10)	●○~●●△	○○~○○△
	(11)		●○~●○△	○○~○○△	
	(12)		●○~●○△	●○~○○△	
	(13)		●○~○○△	○○~●○△	
	(14)		●○~●○△	○○~●○△	
	語 類		1・2	3・4・5	

#### 4.5 各型に属する部落とその方言

(1) に属するもの

162 津嘉山—魚 ʔiːju, ʔiːjunu. 風 kaːzi, kaːzinu. 腰 kuːʔi, kuːʔinu. 鼻 haːna, haːnanu. 音 ʔuːtu, ʔuːtunu. 川 kaː, kaːinu. 橋 haːʔi, haːʔinu. 雨 ʔaːmi, ʔaːminu. 馬 ʔmːma, ʔmːmanu. 雲 kuːmu, kuːmunu. 花 ʔhaːna, haːnanu. 息 ʔiːːtʃi, ʔiːːtʃinu. 稲 ʔnːni, ʔnːninu. 桶 wuːki, wuːkinu.

## (2) に属するもの

76 港川—区—風 kaʔzi, kaʔzinu. 鼻 haʔna, hananu. 石 ʔiʔʃi, ʔiʔʃinu. 音 ʔuʔtu, ʔutunu. 橋 haʔʃi, haʔʃinu. 雨 ʔaʔmi, ʔaminu. 馬 ʔmʔma, ʔmmanu. 雲 kuʔmu, kumunu. 花 haʔna, hananu. 息 ʔiʔʃi, ʔiʔʃinu. 稲 ʔnʔni, ʔnninu. 笠 kaʔsa, kasanu. 船 ʔuʔni, ʔuninu. 桶 ʔuʔki, ʔukinu.

## (3) に属するもの

31 金良—魚 ʔiʔju, ʔijunu. 風 kaʔzi, kaʔzinu. 腰 kuʔʃi, kuʔʃinu. 鼻 haʔna, hananu. 音 ʔuʔtu, ʔutunu. 川 kaʔʃi, kaʔʃinu. 橋 haʔʃi, haʔʃinu. 雨 ʔaʔmi, ʔamiʔnu. 馬 ʔmʔma, ʔmmaʔnu. 雲 kuʔmu, kumuʔnu. 花 haʔna, hanaʔnu. 息 ʔiʔʃi, ʔiʔʃiʔnu. 稲 ʔnʔni, ʔnniʔnu. 船 ʔuʔni, ʔuniʔnu. 汗 ʔaʔʃi, ʔaʔʃiʔnu. 桶 wuʔki, wuʔkiʔnu.

33 長堂, 29 饒波はこれと全く同じ。

## (4) に属するもの

69 新城—魚 ʔiʔju, ʔijuʔnu. 風 kaʔzi, kaʔziʔnu. 腰 kuʔʃi, kuʔʃiʔnu. 鼻 haʔna, hanaʔnu. 石 ʔiʔʃi, ʔiʃiʔnu. 音 ʔuʔtu, ʔutuʔnu. 川 kaʔʃi, kaʔʃiʔnu. 橋 haʔʃi, haʔʃiʔnu. 雨 ʔaʔmi, ʔamiʔnu. 雲 kuʔmu, kumuʔnu. 花 haʔna, hanaʔnu. 息 ʔiʔʃi, ʔiʔʃiʔnu. 稲 ʔnʔni, ʔnniʔnu. 笠 kaʔsa, kasaʔnu. 船 ʔuʔni, ʔuniʔnu. 汗 ʔaʔʃi, ʔaʔʃiʔnu. 桶 wuʔki, wuʔkiʔnu. 夜 juʔru, juʔruʔnu.

## (5) に属するもの

100 知念—魚 ʔiʔju, ʔiʔjunu. 風 kaʔzi, kaʔzinu. 腰 kuʔʃi,

kuʔʃinu. 鼻 haʔna, haʔnanu. 石 ʔiʔʃi, ʔiʔʃinu. 音 ʔuʔtu, ʔuʔtunu. 川 kaʔʃi, kaʔʃiʔnu. 橋 haʔʃi, haʔʃiʔnu. 雨 ʔaʔmi, ʔamiʔnu. 馬 ʔmʔma, ʔmmaʔnu. 雲 kuʔmu, kumuʔnu. 花 haʔna, hanaʔnu. 息 ʔiʔʃi, ʔiʔʃiʔnu. 稲 ʔnʔni, ʔnniʔnu. 笠 kaʔsa, kasaʔnu. 船 ʔuʔni, ʔuniʔnu. 汗 ʔaʔʃi, ʔaʔʃiʔnu. 桶 wuʔki, wuʔkiʔnu. 夜 juʔru, juʔruʔnu.

80 前川, 108 馬天 (息 ʔiʔʃi, ʔiʔʃiʔnu), 109 小谷 (息 ʔiʔʃi, ʔiʔʃiʔnu), 152 当添, 53 摩文仁 (息 ʔiʔʃi, ʔiʔʃiʔnu), 67 喜屋武 (桶 ʔuʔki, ʔukiʔnu), これらは知念と同じ。ただし ( ) 内の語は例外。

## (6) に属するもの

133 大城—魚 ʔiju, ʔijunu. 風 kaʔzi, kaʔzinu. 腰 kuʔʃi, kuʔʃinu. 鼻 hana, haʔnanu. 石 ʔiʃi, ʔiʔʃinu. 音 ʔutu, ʔutunu. 川 kaʔʃi, kaʔʃiʔnu. 橋 haʔʃi, haʔʃiʔnu. 雨 ʔami, ʔamiʔnu. 馬 ʔmma, ʔmmaʔnu. 雲 kumu, kumuʔnu. 花 hana, hanaʔnu. 稲 ʔnni, ʔnniʔnu. 笠 kasa, kasaʔnu. 船 ʔuni, ʔuniʔnu. 汗 ʔaʃi, ʔaʃiʔnu. 桶 wuʔki, wuʔkiʔnu. 夜 juru, juruʔnu.

132 目取真はこれと全く同じ。

## (7) に属するもの

119 西原—魚 ʔiʔju, ʔiʔjunu. 風 kaʔzi, kaʔzinu. 腰 kuʔʃi, kuʔʃinu. 鼻 haʔna, haʔnanu. 石 ʔiʔʃi, ʔiʔʃinu. 音 ʔuʔtu, ʔuʔtunu. 川 kaʔʃi, kaʔʃiʔnu. 橋 haʔʃi, haʔʃiʔnu. 雨 ʔami, ʔamiʔnu. 馬 ʔmma, ʔmmaʔnu. 雲 kumu, kumuʔnu. 花 hana, hanaʔnu. 息 ʔiʔʃi, ʔiʔʃiʔnu. 稲 ʔnni, ʔnniʔnu. 笠 kasa,



kasa<sup>1</sup>nu. 船  $\phi$ uni,  $\phi$ uni<sup>1</sup>nu. 汗  $\lambda$ afi,  $\lambda$ afi<sup>1</sup>nu. 桶 wu<sup>1</sup>ki, wuki<sup>1</sup>nu. 夜 juru, juru<sup>1</sup>nu.

(8) に属するもの

135 真境名一魚  $\tilde{z}$ ju,  $\tilde{z}$ ju<sup>1</sup>nu. 風 ka<sup>1</sup>zi, ka<sup>1</sup>zi<sup>1</sup>nu. 腰 ku<sup>1</sup>fi, ku<sup>1</sup>fi<sup>1</sup>nu. 鼻 ha<sup>1</sup>na, ha<sup>1</sup>na<sup>1</sup>nu. 石  $\tilde{z}$ fi,  $\tilde{z}$ fi<sup>1</sup>nu. 音  $\tilde{z}$ u<sup>1</sup>tu,  $\tilde{z}$ u<sup>1</sup>tu<sup>1</sup>nu. 川 ka<sup>1</sup>:, ka<sup>1</sup>:<sup>1</sup>nu. 橋 ha<sup>1</sup>fi, ha<sup>1</sup>fi<sup>1</sup>nu. 雨  $\lambda$ ami,  $\lambda$ ami<sup>1</sup>nu. 馬  $\tilde{m}$ ma,  $\tilde{m}$ ma<sup>1</sup>nu. 雲 ku<sup>1</sup>mu, kumu<sup>1</sup>nu. 花 ha<sup>1</sup>na, ha<sup>1</sup>na<sup>1</sup>nu. 息  $\tilde{z}$ i<sup>1</sup>tfi,  $\tilde{z}$ i<sup>1</sup>tfi<sup>1</sup>nu. 稲  $\tilde{z}$ ni,  $\tilde{z}$ ni<sup>1</sup>nu. 笠 ka<sup>1</sup>sa, kasa<sup>1</sup>nu. 船  $\phi$ u<sup>1</sup>ni,  $\phi$ uni<sup>1</sup>nu. 汗  $\lambda$ a<sup>1</sup>fi,  $\lambda$ a<sup>1</sup>fi<sup>1</sup>nu. 桶 wu<sup>1</sup>:ki, wu:ki<sup>1</sup>nu. 夜 ju<sup>1</sup>ru, juru<sup>1</sup>nu.

131 湧稲国, 142 世名城, 125 当間はこれと全く同じ.

(9) に属するもの

73 安里一魚  $\tilde{z}$ ju,  $\tilde{z}$ ju<sup>1</sup>nu. 風 ka<sup>1</sup>zi, ka<sup>1</sup>zi<sup>1</sup>nu. 腰 ku<sup>1</sup>fi, ku<sup>1</sup>fi<sup>1</sup>nu. 鼻  $\phi$ ana,  $\phi$ a<sup>1</sup>na<sup>1</sup>nu. 石  $\tilde{z}$ fi,  $\tilde{z}$ fi<sup>1</sup>nu. 音  $\tilde{z}$ u<sup>1</sup>tu,  $\tilde{z}$ u<sup>1</sup>tu<sup>1</sup>nu. 橋  $\phi$ a<sup>1</sup>fi,  $\phi$ a<sup>1</sup>fi<sup>1</sup>nu. 雨  $\lambda$ ami,  $\lambda$ ami<sup>1</sup>nu. 馬  $\tilde{m}$ ma,  $\tilde{m}$ ma<sup>1</sup>nu. 雲 kumu, kumu<sup>1</sup>nu. 花  $\phi$ ana,  $\phi$ ana<sup>1</sup>nu. 息  $\tilde{z}$ ifi,  $\tilde{z}$ ifi<sup>1</sup>nu. 稲  $\tilde{z}$ ni,  $\tilde{z}$ ni<sup>1</sup>nu. 笠 kaha, kaha<sup>1</sup>nu. 船  $\phi$ uni,  $\phi$ uni<sup>1</sup>nu. 汗  $\lambda$ ahi,  $\lambda$ ahi<sup>1</sup>nu. 桶 wu<sup>1</sup>ki, wu:ki<sup>1</sup>nu. 夜 juru, juru<sup>1</sup>nu.

75 仲座はこれと全く同じ.

(10) に属するもの

210 首里当蔵一魚  $\tilde{z}$ ju,  $\tilde{z}$ ju<sup>1</sup>nu. 風 ka<sup>1</sup>zi, ka<sup>1</sup>zi<sup>1</sup>nu. 腰 ku<sup>1</sup>fi, ku<sup>1</sup>fi<sup>1</sup>nu. 鼻 ha<sup>1</sup>na, ha<sup>1</sup>na<sup>1</sup>nu. 石  $\tilde{z}$ fi,  $\tilde{z}$ fi<sup>1</sup>nu. 音  $\tilde{z}$ u<sup>1</sup>tu,  $\tilde{z}$ u<sup>1</sup>tu<sup>1</sup>nu. 川 ka<sup>1</sup>:, ka<sup>1</sup>:<sup>1</sup>nu. 橋 ha<sup>1</sup>fi, ha<sup>1</sup>fi<sup>1</sup>nu. 雨  $\lambda$ ami,  $\lambda$ ami<sup>1</sup>nu. 馬  $\tilde{m}$ ma,  $\tilde{m}$ ma<sup>1</sup>nu. 雲 kumu, kumu<sup>1</sup>nu. 花 hana, hana<sup>1</sup>nu.

息  $\tilde{z}$ ifi,  $\tilde{z}$ ifi<sup>1</sup>nu. 稲  $\tilde{z}$ ni,  $\tilde{z}$ ni<sup>1</sup>nu. 船  $\phi$ uni,  $\phi$ uni<sup>1</sup>nu. 汗  $\lambda$ afi,  $\lambda$ afi<sup>1</sup>nu. 桶 wu<sup>1</sup>ki, wu:ki<sup>1</sup>nu. 夜 juru, juru<sup>1</sup>nu.

(11) に属するもの

90 奥武一魚  $\tilde{z}$ ju,  $\tilde{z}$ ju<sup>1</sup>nu. 風 ka<sup>1</sup>zi, ka<sup>1</sup>zi<sup>1</sup>nu. 腰 ku<sup>1</sup>fi, ku<sup>1</sup>fi<sup>1</sup>nu. 鼻 ha<sup>1</sup>na, ha<sup>1</sup>na<sup>1</sup>nu. 石  $\tilde{z}$ fi,  $\tilde{z}$ fi<sup>1</sup>nu. 音  $\tilde{z}$ u<sup>1</sup>tu,  $\tilde{z}$ u<sup>1</sup>tu<sup>1</sup>nu. 川 ka<sup>1</sup>:, ka<sup>1</sup>:<sup>1</sup>nu. 橋 ha<sup>1</sup>fi, ha<sup>1</sup>fi<sup>1</sup>nu. 雨  $\lambda$ ami,  $\lambda$ ami<sup>1</sup>nu. 馬  $\tilde{m}$ ma,  $\tilde{m}$ ma<sup>1</sup>nu. 雲 kumu, kumu<sup>1</sup>nu. 花 hana, hana<sup>1</sup>nu. 息  $\tilde{z}$ ifi,  $\tilde{z}$ ifi<sup>1</sup>nu. 稲  $\tilde{z}$ ni,  $\tilde{z}$ ni<sup>1</sup>nu. 笠 kasa, kasa<sup>1</sup>nu. 船  $\phi$ uni,  $\phi$ uni<sup>1</sup>nu. 汗  $\lambda$ afi,  $\lambda$ afi<sup>1</sup>nu. 桶 wu<sup>1</sup>ki, wu:ki<sup>1</sup>nu. 夜 juru, juru<sup>1</sup>nu.

93 玉城, 94 新原(息  $\tilde{z}$ ifi,  $\tilde{z}$ ifi<sup>1</sup>nu), 97 志喜屋, 112 佐敷, 110 新里, 88 富里, 87 垣花(息  $\tilde{z}$ ifi,  $\tilde{z}$ ifi<sup>1</sup>nu), 84 喜良原(息  $\tilde{z}$ ifi,  $\tilde{z}$ ifi<sup>1</sup>nu), 79 船越, 78 愛地(息  $\tilde{z}$ ifi,  $\tilde{z}$ ifi<sup>1</sup>nu).

143 高良, 71 大頓はこれと同じ. たゞし, ( ) 内の語は例外.

(12) に属するもの

141 富盛一魚  $\tilde{z}$ ju,  $\tilde{z}$ ju<sup>1</sup>nu. 風 ka<sup>1</sup>zi, ka<sup>1</sup>zi<sup>1</sup>nu. 腰 ku<sup>1</sup>fi, ku<sup>1</sup>fi<sup>1</sup>nu. 鼻 ha<sup>1</sup>na, ha<sup>1</sup>na<sup>1</sup>nu. 石  $\tilde{z}$ fi,  $\tilde{z}$ fi<sup>1</sup>nu. 音  $\tilde{z}$ u<sup>1</sup>tu,  $\tilde{z}$ u<sup>1</sup>tu<sup>1</sup>nu. 川 ka<sup>1</sup>:, ka<sup>1</sup>:<sup>1</sup>nu. 橋 ha<sup>1</sup>fi, ha<sup>1</sup>fi<sup>1</sup>nu. 雨  $\lambda$ ami,  $\lambda$ ami<sup>1</sup>nu. 馬  $\tilde{m}$ ma,  $\tilde{m}$ ma<sup>1</sup>nu. 雲 ku<sup>1</sup>mu, kumu<sup>1</sup>nu. 花 ha<sup>1</sup>na, ha<sup>1</sup>na<sup>1</sup>nu. 息  $\tilde{z}$ i<sup>1</sup>tfi,  $\tilde{z}$ i<sup>1</sup>tfi<sup>1</sup>nu. 稲  $\tilde{z}$ ni,  $\tilde{z}$ ni<sup>1</sup>nu. 笠 ka<sup>1</sup>sa, kasa<sup>1</sup>nu. 船  $\phi$ u<sup>1</sup>ni,  $\phi$ uni<sup>1</sup>nu. 汗  $\lambda$ a<sup>1</sup>fi,  $\lambda$ a<sup>1</sup>fi<sup>1</sup>nu. 夜 ju<sup>1</sup>ru, juru<sup>1</sup>nu.

70 後原( $\tilde{z}$ ifi,  $\tilde{z}$ ifi<sup>1</sup>nu), 72 玻名城(鼻  $\phi$ a<sup>1</sup>na,  $\phi$ a<sup>1</sup>na<sup>1</sup>nu. 橋  $\phi$ a<sup>1</sup>fi,  $\phi$ a<sup>1</sup>fi<sup>1</sup>nu. 花  $\phi$ a<sup>1</sup>na,  $\phi$ a<sup>1</sup>na<sup>1</sup>nu. 笠 ka<sup>1</sup>ha, kaha<sup>1</sup>nu), 32 嘉数はこれと同じ. たゞし, ( ) 内の語は例外.

(13) に属するもの

103 安謝真一魚 ʔiʔju, ʔijunu. 風 kaʔzi, kaʔzinu. 腰 kuʔfi, kuʔfinu. 鼻 haʔna, hananu. 石 ʔiʔfi, ʔifinu. 音 ʔuʔtu, ʔutunu. 川 ʔkaʔ, kaʔnu. 橋 haʔfi, haʔfinu. 雨 ʔami, ʔaʔminu. 馬 ʔmma, ʔmʔmanu. 雲 kumu, kuʔmunu. 花 hana, haʔnanu. 息 ʔiʔtʃi, ʔiʔtʃinu. 稲 ʔni, ʔnʔninu. 笠 kasa, kaʔsanu. 船 ʃuni, ʃuʔninu. 汗 ʔafi, ʔaʔfinu. 桶 wuʔki, wuʔkinu. 夜 juʔru, juʔrunu.

105 海野, 118 仲伊保はこれと全く同じ.

(14) に属するもの

163 山川一魚 ʔiʔju, ʔijunu. 風 kaʔzi, kaʔzinu. 腰 kuʔfi, kuʔfinu. 鼻 haʔna, haʔnanu. 音 ʔuʔtu, ʔuʔtunu. 川 kaʔ, kaʔnu. 橋 haʔfi, haʔfinu. 雨 ʔaʔmi, ʔaʔminu. 馬 ʔmʔma, ʔmʔmanu. 雲 kuʔmu, kuʔmunu. 花 haʔna, haʔnanu. 息 ʔiʔtʃi, ʔiʔtʃinu. 稲 ʔnʔni, ʔnʔninu. 船 ʃuʔni, ʃuʔninu. 汗 ʔafi, ʔaʔfinu. 桶 wuʔki, wuʔkinu. 夜 juʔru, juʔrunu.

#### 4.6 準一音節語との関係

上に述べた 44 部落において, 準一音節語と二音節名詞との関係について述べる.

語類の各型への分かれ方はつぎのように全く一致する.

語	語		数		
準一音節語 (I)	1	2	3		
二音節名詞 (II)	1	2	3	4	5
	a		b		

ただし, 準一音節語において, 1・2・3 の三つの語類が同型になっている地点では, 二音節名詞においても五つの語類が同型である.

ところで, 型への分かれ方は上述のとおり一致するであるが, 対応する語類, すなわち, a の語類の (I):(II) と, b の語類の (I):(II) とをそれぞれ比較してみると, これは一致しそうに予測していたにもかかわらず, 一致する部落と一致しない部落とがあった. 表にするとつぎのとおりである. なお, a, b を通じて一致する部落は表にあげない. 表中の×印は其中で I と II が一致することをあらわす.

部落名		a	b	形
162 津嘉山	I	●○ ~ ○○△	○●▲	A
	II	●○ ~ ○●▲	○●▲	A
29 饒波	I	●○~●●△	×	B
	II	●○~○○△	×	B
80 前川	I	×	○○~○○△	C
108 馬天	II	×	○●~○○▲	B
109 小谷	I	●○~●●△	×	B
	II	●○~●○△	×	B
133 大城	I	○○~●●△	×	B
	II	○○~●○△	×	B

132 目取真	I	●○～●○△	●○～○○△	B
	II	○○～●○△	○○～○○▲	B
119 西原	I	●○～●●△	●○～○○▲	B
	II	●○～●○△	○○～○○▲	B
135 真境名 131 湧稲園	I	○○～●●△	○○～○○▲	B
	II	●○～●○△	●○～○○▲	B
142 世名城	I	○○～●○△	○○～○○▲	B
	II	●○～●○△	●○～○○▲	B
73 安里	I	●○～●○△	●○～●○△	A
	II	○○～●○△	○○～○○△	C
75 仲座	I	●○～●○△	●○～○○△	C
	II	○○～●○△	○○～○○△	C
112 佐敷	I	×	○○～●○△	C
	II		○○～○○△	C
71 大頓	I	●○～○○△	●○～○○△	A
	II	●○～●○△	○○～○○△	C
141 富盛	I	●○～●●△	●○～○○▲	B
	II	●○～●○△	●○～○○△	C
70 後原	I	×	○○～○○△	C
	II		●○～○○△	C

32 嘉数	I	○○～●○△	○○～○○△	C
	II	●○～●○△	●○～○○△	C
103 安謝真 105 海野	I	●○～●●△	○○～●○△	C
	II	●○～○○△	○○～●○△	C
118 仲伊保	I	●○～●○△	○●～○○▲	B
	II	●○～○○△	○○～●○△	C
163 山川	I	●○～○○△	○○～●○△	C
	II	●○～●○△	○●～●○△	C

上表で明らかのように、準一音節語（I）と二音節名詞（II）の形（A・B・C）をくらべると、ほとんどが一致しており、80 前川、108 馬天、109 小谷、73 安里、71 大頓、141 富盛、118 仲伊保の七部落だけが一致していない。そこで、二音節名詞（II）のB形、C形によって部落をえり分けると、準一音節語アクセント分布図の上に示したラインができてくる。これでわかるように、準一音節語の場合の境界とほとんど一致していることが明確になった。

### 5. むすび

これまで奥武方言のアクセントについて述べ、さらに、この方言を含む知念・玉城・佐敷の三村の方言のアクセントが、準一音節語・二音節名詞において、一つの大きなグループをなすことがわかった。そこでアクセント体系としても、これらのグループは、奥武方言のアクセント体系ができるまでは、これを確言する

ことはできない。

#### 補記

二音節名詞のなかで、息・桶・帯などの語（主として、第四・五類に属する語）は、*pitji*《息》のように三音節になる部落と、

二音節の *pitji* になる部落とがある。これらは別に考察すべきであり、こゝではとりあげなかった。

#### 参考文献

「世界言語概説」下巻，琉球語，研究社

「琉球方言」第2号，琉大琉球方言研究クラブ